あいぽーと通信

令和元年（2019）12月発行
第51号

トピックス Topics
- 第3回県民講座 現在（今）を生きるアイヌ
- 特集：いのちの重さを見つめ続けた18年～愛（かな）しみと共に生きる～
- 令和元年度 人権に関する児童生徒の作品 表彰式・発表会・展示会
- ホームページリニューアル　●あいぽーと徳島 イベント情報など

あいぽーと徳島では、さまざまなイベントを開催しています！

第2回 特別展示 スポーツはすべての人を輝かせる ～オリンピック・パラリンピックに向けて～

入場無料

●展示期間 ／ 令和2(2020)年1月18日[土]～2月11日[火]　午前10時～午後5時まで 期間中の月曜日〔祝日の場合は翌日〕は休館日です。
●展示場所 ／ あいぽーと徳島 展示・交流スペース

展示内容 パネル展示
- ●輝く ～スポーツと人権～　〈公財〉福岡県人権啓発情報センター所蔵
- ●いっしょに学ぼう! 障害のある人の人権 ～パラリンピックに向けて～　出典:法務省人権擁護局

第7回 徳島カラーフリー文化祭 ～私の色、あなたの色、多様な性の物語～

入場無料　※申込不要

●日 時 ／ 令和2(2020)年2月23日[日] 午後1時～午後5時（開場12時30分）
●会 場 ／ ときわプラザ「ブライダルコアときわホール」（徳島市山城町東浜傍示1-1 アスティとくしま内）
●主 催 ／ ○SAG徳島　鳴門教育大学　葛西研究室内
○あいぽーと徳島（徳島県立人権教育啓発推進センター） Tel.088-664-3719
○ときわプラザ（徳島県立男女共同参画交流センター）

徳島カラーフリー文化祭は、音楽、演劇、服装、研究などを通して、性の多様性を表現するお祭りです。性の多様性による様々な表現から、「様々な性のあり方」を見て、知って、感じてみようということを目的に開催します。

同和問題講演会 部落問題の現在とこれから ～部落差別解消推進法をふまえて～

入場無料　※申込不要

●日 時 ／ 令和2(2020)年3月7日[土] 午後1時30分～午後3時
●会 場 ／ JA会館本館8階「特別室」（徳島市北佐古一番町5-12）
●講 師 ／ 内田 龍史（うちだ　りゅうじ）さん（関西大学社会学部教授）

●主催・問い合わせ
あいぽーと徳島（徳島県立人権教育啓発推進センター）
Tel.088-664-3719

ライブラリー新着情報 ＼＼貸出始めました♪／／ 『どこでもお話プレーヤー』

文字を読まなくても楽しめます。

聞いて楽しむ日本の名作169作品を、豪華俳優・文化人10名の朗読で収録しています。

●どなたでもご利用いただけます。（貸出カードが必要です。貸出カードはすぐにお作りできます。）

人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

一人で悩まずお電話を

Tel.088-664-3701

●人権擁護委員による相談　第2・第4土曜日（10:00～16:00）　面接相談及び電話相談
●弁護士による相談（要予約）　第1・第3金曜日（13:00～16:00）　面接相談

［編集・発行］
あいぽーと徳島
徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人 徳島ヒューマンネット
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727
あいぽーと徳島 検索　https://www.aiport.jp
●開館時間／午前10時から午後6時まで
●休 館 日／月曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日から1月3日まで）

駐車場案内
お車を利用の場合、ビル西側駐車場の「あいぽーと徳島」と表記のある赤いコーンの場所に駐車してください。
満車の場合は、ビル北側の県営有料駐車場をご利用ください。
●3時間まで200円

■公共交通機関のご案内　JR徳島駅から徳島市営バス【中央卸売市場】行きに乗車し、【沖洲マリンターミナル】にて下車

（音声コード）

【第3回県民講座】 現在（今）を生きるアイヌ

●令和元（2019）年10月25日実施

講師 宇佐 照代（うさ てるよ）さん（アイヌ文化伝承者）

10月25日（金）、沖洲マリンターミナル「マリンホール」にて、アイヌ文化伝承者の宇佐 照代（うさ てるよ）さんを講師に招き、ご講演いただきました。

アイヌ文様刺繍の入った着物で登場され、自然を表現し、神に感謝をこめているアイヌの文化、伝統などの話と、言葉や楽器、歌などの紹介がありました。

宇佐さんは釧路市出身で、10歳の時に東京へ引っ越し、現在は関東に住むアイヌとして、アイヌ文化を伝承する活動をしています。

宇佐さんがアイヌ文化について学ぶきっかけとなったのは、アイヌ活動家の祖母でした。このことについて、次のように語られました。

「祖母が入院した病院に通い続けていたある時、祖母のお友達のおばあちゃんが来て、祖母の耳元でアイヌ語を話していたんです。いろんな活動をしていた祖母ですが、アイヌ語が話せるというのは知らなくて、その時、『アイヌとして生まれて、周りもアイヌだらけで、アイヌ語を話せないわけがない』ということに気付きました。祖母がアイヌ語を話せることを知らなかったショックもありましたが、アイヌ民族として活動をしていたのに、アイヌ語を私たちに教えてくれなかったというのもショックでした。祖母が亡くなる前にいろいろ聞いておかなければと、亡くなるまでの三ヶ月間、アイヌ文化のことや祖母のルーツを聞いたり、自分でも調べたりしました。そして、亡くなる直前、それまで語らなかった昔の事やアイヌ文化についての知識を、いろいろと教えてくれました。そのとき、『民族の誇りを持って生きてほしい』と言われ『テルは民族の誇りを持って生きていくよ』と返事をしたら、祖母は目をつぶったまま笑ってくれたんです。」

宇佐さんは、今もアイヌ民族の歴史や文化について学び続け、アイヌ伝統舞踊や木彫り、トンコリ（弦楽器）などに取り組むほか、日本で唯一のアイヌ料理店「ハルコロ」を営業しています。また、映像作家と関東のアイヌ民族らと一緒に作ったアイヌ語の短編アニメ「七五郎沢の狐」で声の出演もしており、このアニメが会場で上映されました。伝統楽器の「ムックリ」を実際に演奏され、集ったみんなでアイヌの歌を輪唱するなど、アイヌ文化を身近に感じ、考えることができた講座になりました。

（音声コード）

特集

いのちの重さを見つめ続けた18年
～愛（かな）しみと共に生きる～

2019年度 人権教育啓発リーダー養成講座　第6回「犯罪被害者の人権」
●令和元（2019）年11月21日（木）実施

講師　本郷由美子（ほんごうゆみこ）さん
グリーフパートナー歩み 代表

講演内容

■娘の命を奪った池田小事件から

私が阪神淡路大震災で被災した時、娘は0歳でした。5000人以上が亡くなった震災の中で生き残り、今ある命は奇跡だなと感じながら、抱きかかえている0歳の娘の命を大切に育てていかなければと誓ったんです。しかしその6年後、大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件で娘の命は奪われてしまいます。

私が池田小の事件の後に出会ったのは、グリーフケアという言葉です。グリーフとは「悲嘆」という意味で、私自身も事件後のつらかった時期には「すべての人がいなくなればいい」とまで思うようになっていました。その気持ちを聞いて寄り添ってくれる人たちがいたから私は今こうしていられるのであり、私も事件の経験からいろんな人の悲しみに寄り添える人になりたいと思い、今は事件や事故の被害者の方、緩和ケア病棟であと何日しか生きられないという方、引きこもりや障がい者の方などに寄り添う活動をしています。

■被害者の心の回復のために

アメリカの死生学者の言葉に「死に直面した人とその家族、また死別後の苦悩にあえぐ人たちに、どれだけ援助の手を差し伸べられるかがその社会の文化的成熟度を図るひとつの尺度となる」というものがあるように、犯罪被害者だけでなく、生活困窮者や障がい者の方には社会的な支援が必要です。しかしどんな支援も、その人の心がちゃんと回復しないと意味がありません。

犯罪被害者はトラウマと悲嘆の両方を抱えています。トラウマの根底には強烈な恐怖や驚異があり、また悲嘆というのは大切なものを失ってしまうと起きる当たり前の感情で、その根底にあるのは愛情や愛着です。特に交通事故や事件などによる突然死は、準備ができないために受け入れられず悲嘆が複雑化するといわれています。これを癒やすために、周囲の人は寄り添い、話を聞くことで、その人が自ら解決していくことをお手伝いすることができます。

また、喪失の体験はほぼ全ての人が体験していると言えます。わかりやすいのは卒業ですね。大切な先生や友達と別れるのは大きな喪失体験です。でもみんな平気なのは、卒業式というセレモニーがあり、そのセレモニーの準備をしている時に、すでにみんなと感情の分かち合いができているからです。そして卒業式当日は、地域や家族の方みんなで来てくださる。実はそれがグリーフケアの役目を果たしているから、次の一歩に進むことができるんです。

そんなふうに人は悲しみを乗り越える力があるといわれていますが、そこに行き着くための道筋は一人ひとり違います。池田小の事件では8家族の遺族がいますが、8家族であれば8通り、夫婦であれば16通り、子供がいればその数だけ、同じ事件でも回復期と喪失期という心の揺らぎを行きつ戻りつします。回復に頑張って乗り越えて行こうと思っている人に不用意に「泣いてもいいんだよ」と言ってしまうと、今なんとか次に進もうとしているのに無理やり元に戻されることもあります。逆に喪失期に「悲しんだらダメよ」「頑張って」など励ましの言葉をかけると悲しむことに蓋をしてしまうこともあります。支援者にとって大事なのは、被害者の今のその時の気持ちに、一緒に寄り添うことです。

早期危機介入による傷つきにも注意が必要です。警察や医師など、専門家の人は当然プロとして自分のするべきことを時間内に行わなければなりません。しかしその時に目の前にいる被害者に対して、プロとしての厳しい姿勢で対応したらどうなるか。私は事件の時に娘を抱きかかえていたら、警察官から「床に置いてくれ」と言われました。もし娘が生きていたら、ケガをしていたら「床に置け」と言うでしょうか。2.5人称の視点と言いますが、自分にも起こりうるというほんのちょっとした配慮を持った視点で見たら、今ここで何をするべきかが見えてくるはずです。

（音声コード）

■具体的なサポートの方法について

では具体的にどんなサポートをすることができるでしょうか。まずは寄り添って話を聞いていく情緒的サポートというものがあります。また、亡くなった人を役所に届け出るなど、事務手続きや家事、子どもの世話といった面を手伝う道具的サポート。特に役所での手続きは、もう一度被害者の死を突きつけられることで遺族はとても辛い思いをしますから、すごく大事です。あとは心理教育や必要な情報を提供する情報的サポートです。

また、支援者は不用意な情報の拡散に注意が必要です。「現場の情報を知って欲しい」というのはあくまで自分自身の感情で、遺族がそれを望んでいるとは限りませんし、それが二次被害になっている可能性すらあります。被害者のためにしてあげたいという気持ちと、それを望む被害者の気持ちが同じぐらいの力で引き合っているかを冷静に考えることが大切です。

そして、支援者は代理受傷にも気をつけなければなりません。支援に関わった人は「第二の被害者」とも言われることもあるように、実際に現場で目の当たりにしたことを我が事のように受け入れてしまい、サイレントグリーフという本人が気づかないうちに傷つくこともあります。ですから支援する際は周りの人とちゃんとチームを組んで、時には「自分はここまでしかできません」と助けを求めることも重要です。

■68歩の足跡が気づかせてくれたこと

事件が起こった時、傷が深いにもかかわらず娘は廊下の先にある玄関に向かって68歩も歩いていました。私は当初「歩かなければ救急車に乗せてもらえたかもしれないのに」と娘を責めましたが、ある時から「この子は命がけで生き抜くことの大切さを教えてくれたんだ」と思えるようになりました。生きていることは本当に苦しいけど、ここで学んだことを忘れるのではなく、自分の人生の文脈の中に落とし、それを次につなげていこう、社会につなげて生きていこうと思いました。そして神様に「どうか69歩目は手をつないで歩かせてください」とお願いしています。

悲しみというのは3つ漢字があります。心の羽をもぎ取られるような「悲しみ」、衣で唇を押さえているような「哀しみ」、そして愛と書いて「愛しみ」。私は、亡くなった人が残してくれた思いや行動は残された人の心の中に宿ってると思っていて、自分が接した命も一緒に愛しみとともに生きてると思うんです。生きるとは何かと聞かれたら、私はこう答えています。「たくさんの命とつながりを持つこと、そのつながった命をどのようにつなげて活かしていくか、それが私たちが生きることにつながっていくのではないでしょうか」。

2019年度 人権に関する児童生徒の作品 表彰式・発表会・展示会

12月1日（日）徳島県立二十一世紀館イベントホール・多目的活動室にて人権に関する児童生徒の作品　表彰式・発表会・展示会を開催しました。

県内小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒を対象とし、「ひと　いのちふれあい」をテーマに人権作品を募集し、意見発表に係る作文・作詩作曲・標語ポスターの3部門に、総数59,013作品の応募をいただいた中から、151点の作品を表彰しました。

表彰式では、知事賞受賞14作品、教育長賞受賞48作品に賞状が授与され、発表会では、知事賞・教育長賞を受賞した作品のうち、意見発表に係る作文6作品、作詩作曲4作品、計10作品が発表されました。

また、標語ポスター受賞127作品が展示され、多くの来場者がありました。

あいぽーと徳島のホームページをリニューアルしました

事業の紹介、イベント講座情報、貸出用図書・DVDなどの検索がご利用しやすくなります。どうぞご活用ください。

HP QRコード

https://www.aiport.jp　あいぽーと徳島　検索

（音声コード）